

ARIBのからのお知らせ

IEEE 802.16に関する技術セミナーのご案内

ブロードバンドワイヤレスアクセス(BWA)の無線インタフェースとして、IEEE 802.16の基本仕様(通称、WiMAX)を盛り込んだARIB標準規格STD-T94が、2007年12月の第68回規格会議で承認され、本年7月から既に商用サービスが開始されています。

また、本年10月のITU-R WP5DにおけるIMT-Advanced無線インタフェース候補技術の提案募集締切りに向け、当会では高度無線通信研究委員会IMT-Advanced部会無線インタフェース提案検討会において、その候補技術の一つとしてIEEE 802.16mの検討を進めていますが、本年8月下旬から9月上旬に開催予定のIEEE 802.16 WG(BWA(無線MAN/WiMAX)の標準化を担当)第63回会合で、本技術に基づくIMT-Advanced提案内容がとりまとめられる予定となっています。

このような状況を踏まえ、当会ではIEEE 802.16技術の普及・啓発を目的に、下記によりこの分野における技術開発及び標準化に関するIEEE 802.16 WGのキーパーソンを含む専門家による技術セミナーを開催します。

多くの皆様方がご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

記

- 1 名称 : IEEE 802.16に関する技術セミナー
- 2 日時 : 2009年9月4日(金) 午後1時30分から5時10分まで
- 3 会場 : 明治記念館 1階 曙の間
東京都港区元赤坂2-2-23 TEL 03-3403-1171
- 4 主催 : 社団法人電波産業会
- 5 講師 : IEEE 802.16 WG、ARIB高度無線通信研究委員会の関連部会の専門家5名
※講演時の同時通訳はつきませんが、質疑応答については通訳をつける予定です。
- 6 対象 : ARIB会員及びIEEE 802.16関係者
- 7 参加者 : 200名程度 (定員になり次第締め切らせていただきます)

- 8 申込先 : 当会ホームページのセミナー講演会等の申込受付まで
(<https://www.arib.or.jp/cgi-bin/semi/usr/general.cgi>)
- 9 参加費 : 無料
- 10 問合せ先
- 社団法人電波産業会 企画国際部 芝山
TEL 03-5510-8592 / FAX 03-3592-1103
e-mail: arib-seminar@arib.or.jp

ARIBの動き

第74回規格会議を開催

平成21年7月29日に第74回規格会議を東海大学校友会館（霞が関ビル）において開催しました。

今回は、次に掲げる標準規格の策定1件、改定13件、技術資料の策定1件及び改定4件について審議され、すべて提案のとおり承認されました。

- 1 高度広帯域衛星デジタル放送の伝送方式標準規格の策定について
- 2 デジタル放送に使用する番組配列情報標準規格の改定について
- 3 デジタル放送におけるアプリケーション実行環境標準規格の改定について
- 4 デジタル放送におけるデータ放送符号化方式と伝送方式標準規格の改定について
- 5 デジタル放送における映像符号化、音声符号化及び多重化方式標準規格の改定について
- 6 1125/60高精細度テレビジョン方式スタジオ規格標準規格の改定について
- 7 1125/60方式HDTV映像信号の符号化とビット並列インタフェース規格標準規格の改定について
- 8 1125/60方式HDTV信号のビット直列インタフェース規格標準規格の改定について
- 9 1125/60方式HDTVビット直列インタフェースにおける補助データの共通規格標準規格の改定について
- 10 1125/60方式HDTVビット直列インタフェースにおけるデジタル音声規格標準規格の改定について
- 11 放送チェーンにおける映像・音声信号の障害監視のためのメタデータ技術資料の策定について
- 12 地上デジタルテレビジョン放送運用規定技術資料の改定について
- 13 BS/広帯域CSデジタル放送運用規定技術資料の改定について
- 14 IMT-2000 DS-CDMA and TDD-CDMA System 標準規格及び技術資料の改定について
- 15 IMT-2000 MC-CDMA System 標準規格及び技術資料の改定について

- 16 都道府県・市町村デジタル移動通信システム標準規格の改定について
- 17 OFDMA Broadband Mobile Wireless Access System (WiMAX™ applied in Japan)
標準規格の改定について



第74回規格会議の様子

今回の策定又は改定の概要は次のとおりです。

- 1 高度広帯域衛星デジタル放送の伝送方式標準規格 (ARIB STD-B44 1.0版策定)
本標準規格は、標準テレビジョン放送等のうちデジタル放送に関する送信の標準方式に関する省令改正（総務省令第11号 平成21年2月20日施行）を受けて、対応する民間規格として策定しました。本標準規格では、高度広帯域衛星デジタル放送の伝送方式について規定し、PCR及びサイトダイバーシチに関する運用ガイドライン、衛星伝送実験結果、回線設計等についても詳細に解説したものです。
規格化にあたっては、民間規格としての今後の国際展開を考慮した規定としました。
- 2 デジタル放送に使用する番組配列情報標準規格 (ARIB STD-B10 4.7版)
高度衛星デジタル放送方式に関連するTLVパケット伝送に関する番組配列情報テーブル、記述子及び運用ガイドラインの追加・変更、映像フォーマット (1080/P、2160/P)、符号化方式 (H.264|MPEG-4 AVC) 及びマルチチャンネルステレオ (最大22.2チャンネル) に対するコンポーネント内容・種別の規定の追加を行いました。また、識別子の割当状況の更新、参考文献の更新を行いました。
- 3 デジタル放送におけるアプリケーション実行環境標準規格 (ARIB STD-B23 1.2版)
高度衛星デジタル放送での運用が想定される新サービスに対応するため、各種新機能に関する規定を追加しました。また、準拠規格を従来のGEM 1.0から最新バージョンであるGEM 1.2に変更し、これに整合するよう記述

内容や文書構造等を修正しました。さらに、他の規格との整合性の調整や対応関係の明確化、TBDとなっていた定数値の割当て、誤記修正等を行いました。

4 デジタル放送におけるデータ放送符号化方式と伝送方式標準規格 (ARIB STD-B24 5.3版)

第一編では、文字符号化について、UCS(国際符号化文字集合：Universal multi-octet coded Character Set)の符号化文字集合の見直し、制御符号の追加、UCSでの適用範囲の拡大、不可視データを文字列中に埋め込む制御符号(UED)の追加、並びに字幕におけるUCSの利用法の明確化を行いました。また、メディア横断的な規格とするために、映像・音声符号化において他の標準規格の参照による規定が望ましいものを参照にて規定する構成に変更しました。

第二編では、社団法人IPTVフォーラムからのリエゾンにより、IPTV連携機能を新規規定として追加しました。また、高度衛星デジタル放送での運用が想定される新サービスに対応するため、BMLとARIB-J(ARIB STD-B23)併用に関するガイドラインを追加しました。

5 デジタル放送における映像符号化、音声符号化及び多重化方式標準規格 (ARIB STD-B32 2.2版)

高度衛星デジタル放送方式に関連する規定の追加として、第一部では、映像入力フォーマットとして1080/60/P及び2160/60/Pを追加し、カラリメトリに広色域システムを追加しました。また、映像符号化方式としてMPEG-4 AVCを追加し、パラメータの制約条件を規定するとともに運用ガイドラインを追加しました。

また、目的、適用範囲を変更し、メディア横断的な規格としました。

「第2部 音声符号と符号化方式」では、高度衛星デジタル放送方式に関連する音声入力信号の規定追加及び音声符号化方式の規定追加を行いました。また、目的及び適用範囲の改定、音声符号化方式としてMPEG-2 BC方式規定の追加等を行い、狭帯域CSデジタル放送および高度狭帯域CSデジタル放送を含めたメディア横断的な規格としました。

「第3部 伝送信号の多重化方式」では、高度衛星デジタル放送方式に関連する可変長パケット多重化方式及びその伝送制御信号の規定並びに新たな放送の標準方式及びサービスの識別を追加しました。また、目的、適用範囲を変更し、メディア横断的な規格としました。

なお、第6項以降の概要は、次号及び次々号で紹介の予定です。

世界の電気通信の標準化機関の代表者及び専門家が、標準化を進める上で必要となる協力関係を一層緊密なものとするためのGSC-14/GRSC-7 (14th Global Standards Collaboration/7th Global Radio communication Standards Collaboration)

会合が、ITUのホストで開催されました。

期間： 2009年7月13日(月)～16日(木)

場所： スイス ジュネーブ ITU本部

参加機関：	ATIS (Alliance for Telecommunications Industry Solutions)	米国
	TIA (Telecommunications Industry Association)	米国
	ISACC (ICT Standards Advisory Council of Canada)	カナダ
	ETSI (European Telecommunications Standards Institute)	欧州
	CCSA (China Communication Standards Association)	中国
	TTA (Telecommunications Technology Association)	韓国
	ITU (International Telecommunication Union)	スイス
	ARIB (社団法人電波産業会)	日本
	TTC (社団法人情報通信技術委員会)	日本

参加者： 各参加機関及びオブザーバなど約100名

本会合は、参加標準化機関間の情報交換、協力促進並びにITUにおけるグローバルな電気通信標準化プロセスを促進することを目的としており、今会合のスローガンは“Fostering Worldwide Interoperability (世界的な相互運用の促進)”でした。

ARIBからは若尾専務理事を団長に5名が参加し、ARIB及び日本の無線通信分野の主要トピックス紹介のほか、「IMT-Advancedの標準化」、「無線アクセスシステムの標準化」、「ITS無線システム」、「公共安全のための広帯域無線通信システム」、「コグニティブ無線ネットワーク」、「ワンセグとモバイル放送」等に関する活動状況の寄与文書などを提出し、パネルディスカッションに参加しました。また、IMT-Advancedに関する情報・意見交換を行うために設立されたタスクフォースの活動報告を、責任標準化機関の立場で提出しました。本会合の成果として、26件の決議 (ISACC提案の「ハンディキャップを持った人のための通信アクセシビリティ」と、TTC提案をベースに作成された「相互運用」との2件の新決議を含む) を採択すると共に、今回会合のミッション、構成、重要議題、成果並びに次回会合のアナウンスなどを記載したコミュニケをリリースしました。

また、次回第15回会合は、2010年8月末または9月上旬に中国の北京でCCSAのホストで実施することが決定されました。

なお、詳細については < www.itu.int/ITU-T/gsc/gsc14 > をご参照ください。